

《関西大学国際活動事例集》

中原大学(CYCU, 台湾)との研究交流シンポジウム

システム理工学部
教授 梶川 嘉延



【この活動の概要】

主な活動	海外大学との研究交流
関係機関	中原大学(台湾)
実施時期	第1回 2014年6月(中原大学にて) 第2回 2015年6月(関西大学にて)
参加者数	1回につき、学生30名程度と教員10名程度

【先生に直接聞いてみました】

Q この取り組みを始めた経緯は？

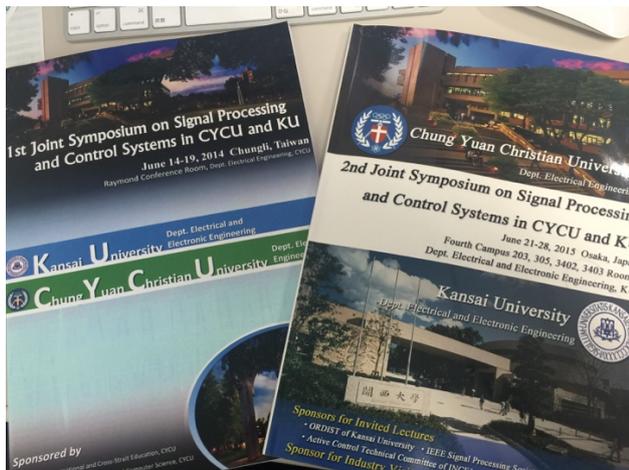
A 2013年に在外研究員(本学の研修制度で、一定期間、海外で研究活動を行う。)としての活動の一環として、台湾の中原大学のChang教授の研究室を訪問しました。Chang教授と私の研究テーマは同じアクティブノイズコントロールに関する内容でしたので、多くのディスカッションをChang教授の指導する学生とともに行うことができました。その際、学生の気質や学力などが当方の学生と似通っていることや、研究分野も同じであることから、交流を目的とした研究発表会を開催しようということになりました。

Q シンポジウムの内容は？

A 基本的に双方の研究室の大学院生が参加する形となっています。シンポジウムの目的は、専門的な研究発表ならびにディスカッションに加えて、双方の学生の交流・交友関係を促進することです。シンポジウムは毎年、6日間にわたって開催されます。初日はウェルカムパーティー、2日目以降にオーラルとポスター発表による研究発表会、ソーシャルプログラム(観光や料理を楽しむ)、研究室見学、招待講演者による講演会、そして最終日前日の夜には双方の国での思い出となるようなバンケットを開催しています。中原大学を訪問した時には、大学そばの夜市を学生は思う存分楽しむことができ、学生同士の交流も十分に行っているといえるでしょう。また、バンケットなどでは、訪問先の学科ならびに学部の教員とも交流を結



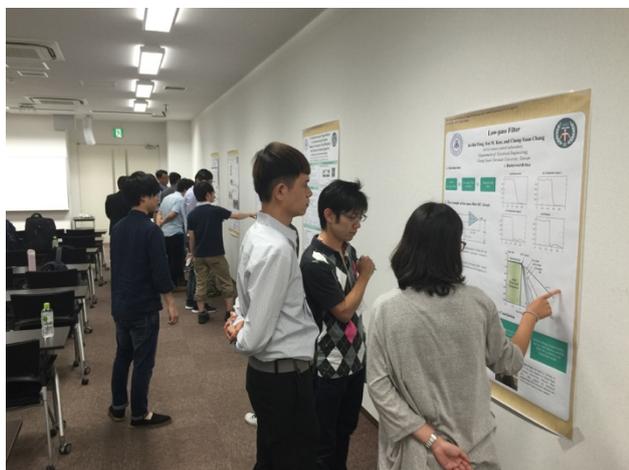
ぶことができます。タイトルで使用している写真以外にも、シンポジウムの様子が見られる写真がいくつかありますので、ご紹介させていただきますね。



シンポジウムの論文集の表紙



たこ焼きパーティー



ポスター発表の様子



工場見学



中原大学でのウェルカムパーティー



中原大学での発表会

Q 参加した学生の反応は？

A 研究内容の議論を通じて多くの知見を得たり、双方の大学について深く知ることができたり、双方の学生が深い交流を通じて交友関係を築いたり、学生の語学力向上への意識が高まったり、明らかに学生はこのシンポジウムにより大きな影響を受けています。

Q 苦労された点は？

A やはり予算の工面でしょうか。学生の渡航費用の捻出や、先方を受け入れる際の食費などのサポートにはどうしても資金が必要になります。企業からの指定寄付やプロジェクト費用で該当する費目を最大限活用しています。

Q 今後の展開は？

A この中原大学との交流をさらに深め、研究室間交流から学科間交流への発展、共同研究の推進、交換留学の促進、公的資金など国際交流をサポートする資金の獲得、DD プログラムの作成といったところまで進めていきたいと考えています。

【中原大学の概要】

- ・ 1953(昭和 28)年に私立中原理工学院として開校。
- ・ キリスト教信者で熱心な教育者により、キリスト教の救世・隣人愛の精神を以って、国のためにハイレベルの科学・設計の人材を育成するために設立。
- ・ 開校から半世紀余りを経て、現在 7 の学院、28 の学部を持つ台湾でベスト 10 に数えられる総合大学に。例えば、上海交通大学 ARWU の 2014 年において、私立大学で第 1 位。
- ・ リードする分野としては、薄膜研究、モデル研究、ナノ技術、生物医学技術 R&D、ロボット研究、コンピュータサイエンス、照明及び色彩研究、グローバル台湾商人研究、応用経済モデル研究、文化創造産業があげられる。
- ・ 商学院はグローバル商学院最高レベル認証である AACSB 認証を取得。
- ・ 学生数およそ 16,000 人。
- ・ 関西大学とは 2015 年 11 月に基本協定および学生交換協定を締結。

